



家康公四百年祭

千 字 万 感

東海光学株式会社

代表取締役会長 古澤 武雄

(岡崎商工会議所 会頭)

「厭離穢土 欣求浄土」を旗印に幾多の艱難辛苦を乗り越え戦国乱世を平定、江戸に幕府を開き265年の長きに亘る天下泰平の世の礎を築いた徳川家康公。

この家康公が薨去され400年(400回忌)の節目の年である昨年(2015年)、「生誕の岡崎」「出世の浜松」「大御所の静岡」の3市3商工会議所で不世出の郷土の英傑家康公の偉大な御遺徳を全国、全世界に発信しようと各種の徳川家康公顕彰四百年記念事業を実施してまいりました。

私は岡崎に生まれ育ち、家康公については「家康公生誕の町 岡崎」という視点で、常に今日まで過ごしてまいりました。今回「家康公四百年祭」を行うにあたって私自身を含めて、何故「祭り」なのか理解できず、初めは本当に困惑をしておりましたが、徳川御宗家第18代当主 徳川恒孝様を中心に家康公と偉業を支えた人々の末裔、そして3市3商工会議所の人々のみならず、本当に多くの地域の皆様が真剣に取り組んでおられる事に感動をいたしました。

そうなんだ、昨年2015年は丁度戦後70年、テーマは「平和」であり、家康公が「欣求浄土」を求めたのと同じなんだ。そして、重き荷を負うて遠き道をゆく人生にだぶらせ、皆様と力を合わせて取組んだ次第です。

徳川家康公顕彰四百年記念事業はプレを含めて3年間、各市それぞれの企画で行ったり、統一事業として3市が合同で行った内容もありました。その中で私が大変感銘を受けた事ではありますが、第18代当主 徳川恒孝様が既に岡崎で行われておりました小中学生を対象とした教育委員会後援の「家康公作文コンクール」。是非、浜松・静岡地区の小中学生にとご提案され、それが実施されたことであります。恒孝様の常に教育が重要であるとお考えがここにも表れ、各市の市長、会頭も進んで採用されたことであります。

また、家康公をテーマとした種々の講演会が実施され、その中で、文化面ばかりでなく、近代を準備した史上最大のプランナーとして、江戸を開発・形成した土木面でも大きく貢献したこと、そして中部のものづくりの原点もこの時代に発生したこと等を知り感銘を受けました。

プレを含めて3年間、徳川家康公顕彰四百年記念事業は終わりましたが、これを一過性のイベントとして終わらせることなく、これからも3市はもとより全国・世界の地域・人々と継続させていくことを私自身もここに申し上げます。